

静岡みなと通信「夏8号」発行に寄せて



静岡県港湾振興会会長
静岡市長 田辺 信宏



清水港

四方を海に囲まれた日本において、全国2位の製造品出荷額等を有するものづくり県である本県の港湾は、物流拠点として地域経済・産業の発展や県民生活の向上に大きな役割を担っているとともに、港はその土地の風景・文化として住民生活の一部に溶け込んでいます。

清水港においては、時代に対応した物流機能を確認すべく新興津地区国際海上コンテナターミナル第2バースを中心に整備を進めていますが、一方で、人々が交流し賑わいのある港となるよう客船誘致、マグロまつりなどの事業も展開しているところです。今後とも将来の清水港を見据え官民協働により事業を展開してまいります。

3月11日に発生した東日本大震災には驚愕したところです。港湾施設への影響について十分検証し、今後の港湾整備、港湾運営に生かしていかなければならないと考えています。

私たち「静岡県港湾振興会」の活動や本紙の発行を通じて、多くの皆様に物流機能の拠点として、加えて災害時の復興支援の拠点としての港の重要性と、港（ウォーターフロント）が持つ憩いと安らぎによる、交流・観光の拠点としての必要性をご理解いただき、今後の港湾機能の整備充実にご協力を賜れば幸いに存じます。



清水港マグロまつりイベント



夕焼けの富士山を背にする海王丸

静岡県港湾振興会の活動報告

日本港湾協会・港湾海岸防災協議会の平成23年度通常総会に出席

平成23年5月18日、佐賀県唐津市の唐津市民会館で日本港湾協会及び港湾海岸防災協議会の総会が開催され、当振興会からは石原副会長（御前崎市市長）をはじめ、16名が出席しました。

総会では、港湾功労者表彰式が行われ、竹下 博実様（株）古川組静岡支店調査役兼管理部長）、山田 一様（田子の浦埠頭（株）取締役兼管理部長）が受賞されました。



通常総会

特集1

平成23年度 港湾関係予算の概要

県の平成23年度当初予算は、静岡県新総合計画を着実に推進させるため、富国・有徳の理想「ふじのくに」づくりの実現に向けた政策を展開していくこととしております。

交通基盤部では、災害に強い地域基盤の整備、交流を支えるネットワークの充実及び陸・海・空の交通ネットワーク機能の拡充を目指し、「活力・交流」「安心・安全」「環境・景観」の基本方針に基づいて、良質な社会資本整備を重点的・効果的に実施する予算を編成しました。

また、財政健全化の推進に取り組むとともに、民間活力の導入、コスト縮減なども引き続き推進してまいります。港湾関係予算の概要については以下のとおりです。

港湾関係事業の重点施策と主要事業

～【活力・交流】～活力・交流の基盤となる陸・海・空のネットワーク形成～

◎清水港 国際海上コンテナターミナルの整備

○港湾改修事業【国直轄施工】 34億8,000万円
新興津地区の第2バースの岸壁(-15m)、防波堤、泊地(-15m)の整備を行います。

○改修事業
【社会資本整備総合交付金・活力創造基盤整備】 6,000万円
袖師臨港地区の橋梁補強や舗装補修を行います。

○起債事業
【ふ頭用地整備、臨海部土地造成、荷役機械整備】 13億7,700万円
新興津地区第2バース背後のふ頭用地整備、都市再開発用地の造成、荷役機械の整備を行います。



清水港新興津地区整備状況
(写真提供:清水港湾事務所)



-15m岸壁整備状況
(写真提供:清水港湾事務所)

◎御前崎港国際物流ターミナルの整備

○港湾改修事業【国直轄施工】 4億7,700万円
女岩地区の防波堤(東)の整備を行います。

○起債事業【荷役機械整備事業】 5億5,800万円
コンテナ船の大型化に対応した荷役機械の整備を行います。



御前崎港全景
(写真提供:清水港湾事務所)

◎田子の浦港国際物流ターミナルの整備

○港湾改修事業【国直轄施工】 23億円
中央地区の岸壁(-12m)の整備に伴い、港内地区の泊地・航路を水深-12mに増深します。

○改修事業

【社会資本整備総合交付金・活力創造基盤整備】 1億8,703万円

港内地区の泊地浚渫や中央地区の臨港道路7号線の接続道路を整備します。



田子の浦港全景
(写真提供:清水港湾事務所)



臨港道路7号線の整備状況
(田子の浦橋架け替え状況)

○公害防止対策事業【国庫補助】

9億5,000万円(見込額)

田子の浦港の底質に含まれるダイオキシン類を除去し、港周辺の生活環境の改善を図ります。

◎競争力のある、使いやすい港づくり

○港湾企画振興費(ポートセールス)

3,227万円

清水港や御前崎港におけるポートセールスの展開、ポートセミナーの開催や港湾使用料の減免措置(インセンティブ)の導入など港湾競争力の向上を図ります。



田子の浦港泊地浚渫状況

○【社会資本整備総合交付金・市街地整備】の活用

1,368万円

御前崎港における利用促進体制の構築や地域振興戦略の検討を行います。



清水港におけるコンテナ荷役の状況

◎地域連携・観光振興等を通じた地域の活性化

○改修【社会資本整備総合交付金・活力創造基盤整備】

7,000万円

観光や水産業などの地域産業の振興や地域経済の活性化を図る「みなとまちづくり」を推進します。

地方港湾下田港において、物揚場の整備を進めます。

○改修(統合補助)【地域自主戦略交付金】

1億3,920万円

清水港、田子の浦港、御前崎港、伊東港、沼津港、浜名港において、岸壁や臨港道路、跨線橋、船揚場などの改良整備を進めます。

○港整備交付金の活用 1億3,000万円

地方港湾と第一種・第二種漁港との連携による効果的な整備を促進します。

伊東港において、岸壁の整備を実施します。



下田港整備状況



伊東港岸壁整備状況

○みなと振興交付金の活用【地域自主戦略交付金】

1億2,026万円

港振興に取り組む市町と協調し、市町が策定する「みなと振興計画」による効果的な整備を促進します。
清水港において、新興津地区に小型船だまりの整備を行います。

【安全・安心】～安全社会を目指す総合的な交通安全対策の推進～

○港整備交付金の活用

1億6,000万円

浜名港において、係留施設の整備を行います。

○地域自立活性化交付金【市街地整備】の活用

1億1,430万円

清水港において、折戸ボートパーク事業を行います。

【安全・安心】～地震災害対策の推進、風水害対策の推進～

○港湾改修(避難港)事業【国直轄施工】

5億8,600万円

下田港において、避難船舶を守り、津波低減効果が期待できる防波堤の整備を行います。

○海岸保全事業

大地震に伴う津波被害や台風などによる高潮被害から、県民の生命財産を守る海岸保全施設を整備します。

・海岸(高潮)【社会資本整備総合交付金・水の安心安全】

2億7,842万円

清水港、御前崎港、沼津港、土肥港において胸壁、堤防、陸こうなどの整備を行います。

・津波危機管理統合補助【地域自主戦略交付金】

1億6,390万円

清水港、相良港及び下田港の堤防や陸こうなどの施設改良や、沼津港及び宇久須港の津波防災ステーションの整備を進めます。

・効果促進(海岸)【地域自主戦略交付金】

1,150万円

下田港の護岸未整備箇所を解消します。



土肥港海岸津波対策

【環境・景観】～自然と共生の推進～

○海岸環境整備事業【地域自主戦略交付金】

9,300万円

豊かで美しい海岸環境の保全・回復や景観に配慮した親水空間を創造して行きます。

熱海港、榛原港において、堤防や緑地広場などの整備を進めます。



熱海港多賀地区の整備状況

【環境・景観】～美しい景観の保全と創造～

○港湾環境(緑地等)整備事業

【地域自主戦略交付金】 1億5,000万円

海洋性レクリエーションへの対応や港湾を訪れる人々・地域住民が親しむ快適な水辺空間の整備を行って行きます。
清水港や田子の浦港において、緑地などの整備を行います。



田子の浦港富士緑地の利用状況

特集2

津波被害から 得られた教訓

平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震では、東北・北関東の各地に大きな被害をもたらされました。静岡県では、3月下旬に自ら環境部と交通基盤部による先遣隊を岩手県へ派遣し、被災地の支援や被害の調査を実施しました。今回、その報告書をもとに、未曾有の津波災害から得られた教訓をまとめさせていただきます。

1 東日本太平洋沖地震の津波被害

東日本太平洋沖地震では、大津波が沿岸各地を襲い、壊滅的な被害を出しました。沿岸のすべての町が消滅してしまっ、社会が消えてしまったといった状況でした。国土院が、今回の地震津波による浸水面積を計測したところ、561km²にもおよび、静岡県清水区の2倍を超える面積が津波で浸水したことになります。

死者・行方不明者はおよそ23,000人、亡くなった方の9割以上が津波によるもので、日本の歴史上で最大の人的被害をもたらした津波災害といってもよいでしょう。

津波の高さは被災地各所に残る津波の痕跡から確認でき、高いところで15mから20mにもおよんでいます。

この津波によって木造住宅は全て流されてしまい、鉄筋コンクリートのビルでは、ビル自体は残ったものの、3階から4階の高さまで、津波が壁を突き抜けてしまいました。これまでは、高台のない地区については鉄筋コンクリートの建物を津波避難ビルにするように、それもビルの3階以上に避難するよう言われていましたが、今後はより高層階へ避難するよう見直されると思われます。



津波の来襲状況 (岩泉町小本地区)
(写真提供:静岡県支援先遣隊)



4階まで到達した津波 (沿岸部にある集合住宅)
(陸前高田市) (写真提供:静岡県支援先遣隊)

2 防災施設の破壊

三陸の沿岸は昔からたびたび津波被害にあっているため、ほとんどの沿岸に防潮堤が設けられていましたが、今回の津波で大部分が破壊されてしまいました。

たとえば、岩手県の釜石港には湾口に水深63mの海底から立ち上げた、海面からの高さが約6mの大規模な防波堤がありましたが、津波で押し倒されてしまいました。

また、岩手県宮古市田老(たろう)町では、高さが10mを超える海側・陸側の二重に設置された、総延長2.4kmにおよぶ「日



津波で破壊された防潮堤 (宮古市田老海岸)
(写真提供:静岡県支援先遣隊)

本一の防潮堤」によって町を守っていましたが、津波はそれを乗り越え、街をあらい、たくさんの犠牲者を出しました。また、この二重の防潮堤は一部が500mにわたって破壊されました。これまで世界にも類を見ない防潮堤に信頼をよせていたため逃げ遅れて犠牲になった方もいたそうです。

堅牢なこれらの防災施設といえども、大自然の猛威の前には町を守り抜けなかったと言えます。



津波で破壊された防潮堤 (田老地区)
(写真提供:静岡県支援先遣隊)

3 凶器となった漁船や石油タンク

宮城県の気仙沼市では、たくさんの漁船が陸上に打ち上げられたままになっていました。

中には300トンから400トン級の大型漁船もあり、このような漁船が何隻も、津波とともに町の中を動き回り、建物を破壊する凶器となったのです。

また、気仙沼市では地震の直後に火災も発生しました。原因は港周辺にあった石油タンクが津波によって流され、油を水面にまき散らしたところに発火したため、街に燃え広がり大きな火災になりました。

津波は、「海水」が押し寄せてくるので火事などおこることはないと考えがちですが、過去にも津波による火災の例は多く、1993年の北海道南西沖地震では奥尻島で火災が発生しています。1964年のアラスカの大地震でも石油タンクに何かが衝突し、街全体が焼失してしまいました。「津波が火災を呼ぶ」ということも、防災上の重要な視点と言えるでしょう。



津波による火災状況 (大槌地区)
(写真提供:静岡県支援先遣隊)

4 手つかずの冠水地域

海岸からやや陸側にはいった地域では、至る所に大きな水溜りができています。これは地震により地盤が0.7mから1.0m以上も沈下したため、津波による海水が溜まったままになっているのです。今回のように海溝型の巨大地震が発生すると、震源に近い部分の地盤は隆起するのに対し、背後の内陸側では地盤が沈下する地域が現れます。

現在、冠水したままの地域では、大潮などの満潮時にたびたび浸水するという被害が生じていますが、排水も大変困難であるという状況にあり、今後、解決していかなければならない新たな課題といえます。



沈下の状況 (陸前高田市)
(写真提供:静岡県支援先遣隊)

5 今回の大災害で得られた多くの教訓

今回の大震災は、上記であげた内容のほか、十数万人と言われる避難者がでていること、避難場所での大変厳しい生活環境や医療の問題、あるいはガソリンをはじめとする物流の停滞、原発事故をめぐる危機管理の在り方など多岐にわたる課題を残した災害でした。

将来、南海トラフにおいて東海・東南海・南海の3連動地震と言われる地震が発生すると、海底の断層破壊は今回と同様に500km以上に及ぶと考えられており、地震災害と津波災害が併発し甚大な災害をもたらすことが予想されます。

今回の巨大災害がもたらした皆さんの教訓と反省点を総括し、将来の防災対策に有効に活かしていくことが重要です。皆さんも日頃利用している港周辺に赴いて、万一の場合どのように避難したらよいか、一考していただければと思います。



みなとニュース



清水港と富士山静岡空港を山梨県でPR

清水港ポートセールス実行委員会（静岡県・静岡市・清水港利用促進協会）は、富士山静岡空港利用促進協議会と共催で、平成23年1月20日、甲府市内で山梨県内の荷主企業、金融、官公庁等の関係者を招き「清水港／富士山静岡空港セミナー」を開催し、山梨県に最も近い海の港「清水港」、空の港「富士山静岡空港」を広くPRしました。

セミナーでは、鈴木与平委員長、小沼山梨県副知事、宇野甲府市副市長の挨拶に続き、清水港、富士山静岡空港、中部横断自動車道の概要説明を行いました。清水港のプレゼンテーションでは、PR映像を用いて清水港の充実した施設・サービス体制を紹介し、利用拡大を呼び掛けました。

当日は、400名を越える出席があり、出席者からは「清水港の利便性の高さが良く分かった」、「中部横断自動車道の開通が待たれる」といった声が聞かれ、今後の清水港の利用拡大に期待を抱かせるものとなりました。



挨拶する鈴木与平委員長



多くの参加者に清水港をPR

西部地区貿易懇談会で清水港をPR

清水港ポートセールス実行委員会は、平成23年2月10日、浜松市内において静岡県西部地域の荷主企業や官公庁関係者を招待し約450名が出席する中、西部地区貿易懇談会を開催しました。

最初に、主催者を代表して鈴木与平委員長が挨拶し、清水港の現状と港湾整備計画等について触れながら、同港の利用促進を呼び掛けました。

続いて、テレビのコメンテーター等多方面で活躍している東京大学大学院経済学部教授の伊藤元重氏が「グローバル化と日本経済の課題」をテーマに講演し、日本の金融・経済市場の分析及び展望と、それに対応するために企業が取るべき戦略について論じました。

実行委員会では、清水港の利用荷主の増加を目指して、今後も官民一体となったポートセールス活動を進めていくこととしています。



多くの参加者を迎えた会場



講演する伊藤元重東京大学大学院教授

「第1回みなとオアシス研究会の開催」－沼津市：沼津港振興会－

魚市場やみなと商店街、観光協会、行政などで組織する沼津港振興会では、平成23年2月18日、沼津港のより一層の観光振興を図るための研修会として「第1回みなとオアシス研究会」を開催しました。

沼津市戸田地区は、近代船舶建造に貢献してきた歴史があります。こうしたことを背景に「セールタウン沼津」と題したまちづくりを提唱する帆船Ami号船長の溜光男（たまりみつお）さんに基調講演いただき、また帆船Ami号への体験乗船を行いました。

このほか、沼津港における水揚量の7割を占めるサバを活用したまちおこしに取り組む「沼津みなと商店街（協）」の後藤義男理事長からの事例発表、「サババーガー」などサバを活用した6品の料理の試食会を行いました。

38名の参加者からは、年間130万人の観光客が訪れる県内唯一のみなとオアシス認定港である沼津港の魅力や現状を再認識できたとの声も聞かれ、沼津港振興会としても今後とも様々なアイデアを生かしながらさらなるにぎわいの創出に向けて取り組んでいきたいと考えています。



帆船Ami号への体験乗船を行いました



揚げたサバをパンではさんだサババーガー

御前崎港で新コンテナクレーンが完成

御前崎港では、船舶の大型化や荷役スピードのアップに対応するため整備を進めていた新コンテナクレーンが完成し、平成23年4月28日、使用を開始しました。これまでの横13列、船上4段積みのパナマックス型貨物船対応のクレーンに比べて一回り大きくなり、横16列、船上5段積みのオーバパナマックス型貨物船の荷役が可能となりました。

これに先立ち、4月27日に御前崎港荷役関係者による供用開始式典を行いました。この式典では静岡県御前崎港管理事務所長が、コンテナクレーンの安全な使用を呼び掛け、使用者に対して許可証を交付しました。

なお、平成24年夏にはもう1基のクレーンも更新が予定されています。御前崎港は、今後も利便性向上に向けて整備が進められていきます。



新コンテナクレーン完成



供用開始式典

田子の浦港築港50周年記念式典



川勝静岡県知事ほか関係者による記念クス玉割り

今年、2011年(平成23年)は、富士山に一番近い港である田子の浦港の最初の岸壁が完成し、管理・運営を始めた1961年(昭和36年)から数えてちょうど50周年となることから、2月23日の「富士山の日」を記念した「富士見の祭典」のオープニングイベントとして2月19日「田子の浦港築港50周年記念式典」を開催しました。

この式典では、津川国土交通大臣政務官、鈴木富士市長のほか、田子の浦港振興会遠藤会頭や地元NPO等、多くの関係者に参加いただく中、田子の浦港の開港からの歩みを紹介した他、地元の富士凧揚げ倶楽部による凧揚げ大会や、富士山の100分の1スケールのミニ富士山(37.76m)への花の種まき、富士見高等学校吹奏楽部によるミニコンサートなど節目の年を祝いました。

また、式典が開かれた緑地公園はこれまで「富士シンボル緑地」と仮に呼ばれていましたが、この緑地の愛称を募集したところ、県内外から合計で1,016通の応募があり、選考の結果、「ふじのくに 田子の浦 みなと公園」に決定しました。たくさんの方が、みなとに親しむレクリエーションの場となることが期待されています。

なお、この日は、国の直轄事業として整備されていた、中央2号岸壁が全面供用開始されました。中央航路及び泊地の水深12m化の増深工事とあわせて、今後大型貨物船舶の利便性向上が見込まれています。



ミニ富士山への花の種まきの様子



「富士凧揚げ倶楽部」による凧揚げ大会

第34回静岡県地方港湾審議会の開催

平成23年3月24日に開催された第34回静岡県地方港湾審議会において「清水港臨港地区内構築物建設許可申請について」が審議され、また「清水港、田子の浦港、御前崎港の3港の一体的な整備・運営のあり方及び推進方策」についての報告が行われました。

このうち、「清水港臨港地区内構築物建設許可申請について」では、中部電力(株)が静岡市と共同で静岡市清水区三保に建設する計画を進めている8,000kW規模の大規模太陽光発電所(メガソーラー)について、建設地が臨港地区内に位置するため、「静岡県の管理する港湾の臨港地区内の分区における構築物の規制に関する規制」に基づき、許可すべきであるのか、審議会での意見を求めました。

審議会では、「清水港臨港地区内構築物建設許可申請について」が答申され、また、この審議会に先立ち、別に設置された「駿河湾港アクションプラン検討部会」において「清水港、田子の浦港、御前崎港の3港の一体的な整備・運営のあり方及び推進方策」についての答申がとりまとめられたので、その報告が行われました。

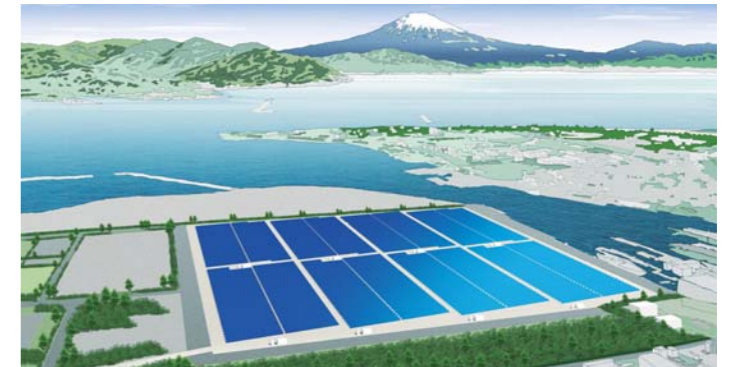
この答申については、3月30日に地方港湾審議会の中嶋会長から知事へ答申書が手交され、これを受けて、県は、「駿河湾港アクションプラン」を3月31日に策定しました。



第34回静岡県地方港湾審議会 審議状況



川勝知事に答申書を手渡す中嶋会長(中)＝県庁
(静岡新聞2011年3月31日掲載)



メガソーラー完成予想図(イメージ)

御前崎港に新規定期コンテナ航路が2便開設

御前崎港に新たな定期コンテナ航路が2便開設されました。

1つ目は「日中フィーダー航路」で、4月7日に第一船が入港しました。日本国内の数港と赤湾(中国・広州)を結び、週1便が寄航します。2つ目は「日韓フィーダー航路」で、6月1日に第一船が入港しました。日本国内の数港と釜山(韓国)を結び、同じく週1便が寄航します。

これにより、御前崎港は、従来の東南アジア・インド・パキスタン航路に加えて、3航路・週3便体制となります。

ここで、「フィーダー航路」とは、基幹航路に就航する本船の寄港地と、本船の寄航しない港を結ぶ航路のことをいいます。御前崎港は、この2つのフィーダー航路によって、赤湾、釜山を経由して世界各地への輸出入が可能となりました。利便性が一層向上した、御前崎港の取扱貨物量の更なる増加が期待されます。



日中フィーダー航路マップ



日韓フィーダー航路マップ

静岡県港湾振興会の県外港湾視察研修

平成22年12月20日～22日の3日間、会員団体等から20名が参加し、茨城県の茨城港・鹿島港、千葉県の銚子漁港の視察研修を実施しました。

初日は、茨城県庁を訪問し、茨城港、鹿島港の概要説明を受けました。茨城港は、平成20年12月に日立港、常陸那珂港、大洗港を統合し、新しく誕生した港です。統合前の県北3港の歴史や特性を踏まえつつ、規模拡大と知名度の向上によるブランド力の発揮や、各種手続きの一元化を始めとする顧客志向の港湾サービスの提供を目指しています。鹿島港は、国内最大級のコンビナートの海上輸送基地として重要な役割を担っています。説明では「企業誘致については、東京事務所とは別に、企業立地東京本部を設置し10人程度のセールス部隊が、栃木県、群馬県へと足を伸ばしてPRしている。また、港の統合化により、定期航路、コンテナ関係が、常陸那珂港区に集約できつつある事が非常にメリットであり、取扱貨物量のランキングについても合算し、一本化して紹介できるようになった」等の話がありました。



茨城県庁にて、茨城港・鹿島港の概要説明



鹿島港



茨城港常陸那珂港区

銚子漁港では、漁港事務所で概要説明を受け、第3卸売市場、銚子ポートタワー、ウオッセ21（水産物卸売センター）を視察しました。

銚子漁港は、昭和35年、特定第3種漁港に指定されて以来、大規模な漁港整備が展開されたことから、水揚げ量も向上しています。

各視察先では、担当者からの丁寧な概要説明をいただき、大変有意義な研修となりました。

※平成23年3月11日に発生した、東日本大震災により、今回視察させていただいた茨城港、鹿島港、銚子漁港も大きな被害を被りました。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。



銚子ポートタワーからの眺め
(左が第3卸売市場)



銚子ポートタワー

みなと“白慢”

沼津市 沼津港振興対策室

～みなとオアシス沼津～

1. はじめに

静岡県が管理する地方港湾沼津港は、駿河湾の最奥部に位置し、比較的小規模ながら密度の高い利用が図られ、新鮮な水産物を求める多くの観光客が訪れる本市で最もにぎわう観光拠点となっています。

2. 沼津港港湾振興ビジョンによる整備の状況



水産複合施設「沼津魚市場 INO（イーノ）」

現在、沼津港では、平成12年に国から特定地域振興重要港湾に選定されたことを契機に、静岡県とともに策定した「沼津港港湾振興ビジョン」に基づいて施設整備などが進められています。

これまでに、平成16年に大型展望水門「びゅうお」、平成17年に立体駐車場「ぬまづみなとパーキング1号棟」、平成19年に市場機能と観光機能を備えた水産複合施設「沼津魚市場 INO（イーノ）」、平成21年には魚食の普及と地産地消を目的とした商業施設「沼津 みなと新鮮館」が整備されました。これらの施設には、公共トイレや観光案内・イベントスペース、セリ場見学通路や展望デッキなど来港者の

の利便に供するための機能が備えられています。

3. 来港者の動向や課題、今後の取り組み

こうした施設整備を含めたにぎわいづくりへの取り組みが認められ、平成19年には国から県下第1号となる「みなとオアシス」に認定されました。また、年間約131万人（平成21年の調査）の観光客が沼津港を訪れていますが、来港者の傾向としては、6割の方が関東圏から、自家用車を利用して昼食時間帯に集中しており、交通混雑の緩和が喫緊の課題となっています。このため、平成23年度には港湾振興ビジョンに基づき2棟目となる立体駐車場を整備する予定です。



第39回沼津水産祭での様子

また、小規模な港湾であり駐車スペースにも限りがあることから、電車などの公共交通の利用や沼津港と沼津駅を結ぶ無料シャトルバスの運行などにも取り組み、港のにぎわいが中心市街地に波及するように努めています。



週末の交通混雑の解消は喫緊の課題です

「ふじのくに田子の浦みなと公園」の完成と「海岸占用協議」

元 静岡県清水港管理局長
長江 元義



【はじめに】

「ふじのくに田子の浦みなと公園」の一部供用開始により、田子の浦港に人々が集い、賑わいが生まれることが期待されておりますが、富士山と大型船の入出港をこんなに近くで見ることの出来る公園は、他には無いと思われ、これからが楽しみであります。

私がこの公園に関わったのは基盤整備です。国の河川局直轄海浜地に護岸を築造し、浚渫土砂の処分地とするものでした。その中の一齣である「旧建設省との海岸占用協議」について一言書いてみます。

【当時の浚渫土砂の処理状況】

私が田子の浦港管理事務所長として赴任したのは平成10年。平成5年から始まった旧建設省との海岸占用協議が暗礁に乗り上げており、占用の同意が得られるのが、2年先になるのか、3年先になるのか、どうして進めたらよいのか、大変厳しい時期でした。

旧建設省との占用協議が長引き、当時、港は浚渫した土砂の仮置土であふれかえっていました。

緊急的な対策として、次のような打開策が検討されていましたが、どれも中途半端なものばかり。占用の同意はいわゆる待った無しの状況でした。

- ①富士山麓での埋立
- ②北九州市への海上運搬処理
- ③焼成によりダイオキシン除去後の有効利用
- ④高圧脱水による減容化処理
- ⑤海岸への養浜処理

【幸運の到来】

占用協議が始まり、国から回答が示されましたが、30項目もの質問項目が付されていました。これまでに、



地元のお祭りで賑わう「ふじのくに田子の浦みなと公園」



ふじのくに田子の浦みなと公園計画図



田子の浦港全景(平成18年頃)

安倍川などの河川協議で同様の経験をしていたことから、自分の在任中に解決するには相当厳しい作業になるだろうと覚悟を決め、どんな手掛かりでも良いから掴めないものかと協議には最初から参加すると決めておりました。

協議のため早速沼津河川国道事務所に出掛けたとのことです。担当者に会うため玄関入り口で座席表を確認したところ、そこに高校の同級生(岐阜工高)の名前があり、副所長をしていることを知りました。幸運の到来を感じた瞬間でした。

【11月4日の同意～幸運を掴んで】

この好機を逃してはならないと担当者と足繁く事務所に通い、精力的に協議に取り組みました。国の担当者の好意的な対応もあり9月末には30項目の質問全てに協議が整いましたが、副所長が私の知らないところでしっかりとフォローしてくれていたことは間違いありません。10月初めには中部地方建設局で説明する機会を設けてくれ、その席上、「平成元年の港湾計画で合意されているものを、いつまでも引き伸ばすべきではない」と頑張ってくれました。彼がもたらしてくれた幸運に今なお感謝を忘れません。

それからの2週間は最後の詰め。図面や書面の訂正、決裁など殺人的な忙しさになりましたが、担当者はもちろんコンサルの方々もよく頑張ってくれました。その結果が「11月4日の建設省の同意」です。平成11年1月には廃棄物処理護岸の基礎工に着工することができ、約60万㎡の浚渫土砂を埋め立てることが可能となりました。副所長が幸運を運んでくれ、担当者達の頑張りがこの幸運をしっかりと掴んだからこそ実現できたものです。「11月4日の同意」は担当者にも私にも宝物です。

【終わりに】

この協議が解決することによりそれからの1年半は、それまで滞っていた港の整備に心置きなく取り組むことができました。取り組んだ主な内容は、次のような事柄です。

*田子の浦港の役割や実情をメディアなどを通じて頻繁に報道する。

*富士市との意思疎通を図るため、市に港湾担当係の設置を働きかける。

*国会議員、富士市長、富士商工会議所会頭、土木部長等の勉強会を開催し、港の役割と整備についての認識を一致させる。
など、とにかく前向きに取り組むことが出来、次のような結果が得られました。

*市役所内に港湾振興係が設置される。

*中央埠頭(-12m)岸壁工事が促進される。

*富士2号上屋の建設に着手される。

*廃棄物埋立護岸の工事が着手される。
また、2年間で港湾整備費を倍増(約33億円)することもでき、工事費ベースでは、富士土木事務所をしのぐほどになりました。



廃棄物埋立護岸築造の様子(平成12年頃)

それ以来、事務所の中は活気にあふれるものとなりました。

昼休み時間に、若い職員達と大きな声を出しながら、時間いっぱい卓球をしたのが懐かしい、田子の浦港で楽しかった思い出の一つとなりました。

これも副所長のおかげです。高校の同窓会に出掛け副所長と会うたびにその思いを強くします。

田子の浦港の泊地維持浚渫は今後も続きます。その処分地確保は、並々ならぬ苦労があらうかと思いますが富士地域発展のため、皆様方の更なるご活躍・ご健闘をお祈りいたします。



日 程	内 容
7月30日(土)・7月31日(日)	伊東温泉「夢花火」(伊東市 伊東港海岸)
8月1日(月)～8月4日(木)	あたまビールフェスティバル(熱海市 熱海港親水公園)
8月5日(金)・8月8日(月)・8月18日(木)・8月21日(日)・8月27日(土)	夏季熱海海上花火大会(熱海市 熱海港)
8月5日(金)・8月6日(土)・8月7日(日)	清水みなと祭り(8/5・6港かっぱれ総おどり、8/7海上花火大会)(静岡市)
8月7日(日)	御前崎みなと夏祭り(御前崎市 マリンパーク御前崎)
8月8日(月)	弓ヶ浜花火大会(南伊豆町 弓ヶ浜海岸)
8月10日(水)	按針祭海の花火大会(伊東市 伊東港海岸)
8月10日(水)	相良海上花火大会(牧之原市 さからサンビーチ)
8月14日(日)～8月15日(月)	安良里夏まつり(西伊豆町 安良里港)
8月14日(日)	焼津港海上花火大会(焼津市 焼津港外港)
8月15日(月)～8月16日(火)	田子港祭り(西伊豆町 田子港)
8月16日(火)	百八体流灯祭(熱海市多賀長浜海岸ほか) 網代海上花火大会(熱海市網代港)
8月18日(木)～8月21日(日)	土肥サマーフェスティバル(伊豆市 土肥港湾内)
8月20日(土)	「えんばい朝市」(午前7時30分～商品がなくなり次第終了)(浜松市 舞坂漁港)
8月20日(土)・8月21日(日)	ビルフィッシュトーナメント大会(御前崎市 御前崎港東埠頭)
8月22日(月)	伊豆山温泉さざえまつり 海上花火大会(熱海市 伊豆山港)
8月27日(土)・8月28日(日)	弓ヶ浜ビーチバレーフェスタ(南伊豆町 弓ヶ浜海岸)
8月27日(土)・8月28日(日)	WIND BLOW(ウインドブロー)(牧之原市 相良シーサイドパーク)
9月3日(土)・9月4日(日)	ビッグシャワー海洋浴の祭典(下田市 吉佐美大浜海岸)
9月10日(土)・9月11日(日)	日本国際オープンウォータースイミングレース大会(南伊豆町 弓ヶ浜海岸)
9月11日(日)	夕映えの響き(西伊豆町 宇久須港内クリスタルビーチ)
9月11日(日)	大井川港朝市(焼津市 大井川港)
9月22日(木)	客船「飛鳥II」入港(静岡市 日の出埠頭)
9月25日(日)	第11回田子の浦漁協しらす祭(富士市 田子の浦漁業協同組合)
10月2日(日)	アクアスロン大会(南伊豆町 弓ヶ浜海岸)
10月9日(日)	清水港マグロまつり(静岡市 JR清水駅みなと口周辺)
10月16日(日)	千本浜ファミリーマラソン(沼津市 千本浜防潮堤)
10月16日(日)	かわはぎ釣り大会(西伊豆町 宇久須港)
10月27日(木) 予定	港湾を考える全国集会(砂防会館)
11月26日(土)・11月27日(日)	ゴールドプリーズ御前崎2011(ウインドサーフィン)(御前崎市 御前崎ロングビーチ)
11月26日(土)～11月30日(水)	帆船「海王丸」入港(静岡市)
12月4日(日)・12月11日(日)・12月23日(金/祝)	冬季熱海海上花火大会(熱海市 熱海港)
12月22日(木)	とっておき冬花火大会(伊東市 伊東港海岸)
7月～11月(毎月第1日曜日)	海湖館朝市(湖西市)
9月19日(月/祝)	秋季熱海海上花火大会(熱海市 熱海港)
9月～10月 毎週土曜日	熱海港ファンタスティッククルーズ(熱海市 熱海港)
平成23年1月2日(月)	乗り初め(西伊豆町 仁科港・安良里港)

編集後記 |

今号では、特集「津波災害から得られた教訓」を掲載しました。
 今年、3月11日に発生した東日本大震災により、尊い命が奪われ、街や村は失われました。報道される映像はたいへん衝撃的なものであり、見る度に胸が締め付けられる思いでした。自然と共に、安全に生活するために、津波防災対策の重要さと難しさを改めて痛感しました。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧復興をお祈り申し上げます。(K.H.)

当会では、会報誌面充実のため皆様からの港に関する情報やニュース・寄稿をお待ちしています。
 関係団体の活動、イベントPRなど…どんな些細な事でも構いません。詳しくは下記連絡先までご連絡ください。

ふじのくに
 静岡みなと通信

vol.16
 夏8号
 2011.7.14



商店街で新鮮な海産物を求める観光客



内港での水中照明実験



(通称)二番線での屋のにぎわいの様子



大型展望水門「びゅうお」と建物壁面に映る富士山

～目次～

- 静岡みなと通信「夏8号」発行に寄せて(静岡市長)……………1
- 静岡港湾振興会の活動報告……………1
- 平成23年度港湾関係予算の概要……………2
- 津波災害から得られた教訓……………5
- みなとニュース……………7
- みなと自慢[沼津港]……………12
- 港こぼれ話……………15
- 港湾関係行事予定……………15



「沼津魚市場 INO(イーノ)」でのセリの様子



香貫山からの沼津港の夜景

